

< 今日の説教のポイント 出エジプト記 14 章 15 節 - 15 章 21 節 >
信仰告白的物語「葦の海の奇跡」と信仰告白「海の歌」から学ぶ。

1 (15-18) 主に向かったの叫び(15)から考えさせられること。

(13-14)のモーセの言葉からすると、理解に苦しむ 15 節の神様の言葉です。民が叫んだのだと説明するのは簡単ですが、全体から部分を考えることが大事です。モーセは約束の地には入れてもらえませんでした。それは民に対して示し続けるべき姿を取らなかったことがあったからです(民数記 20:12)。しかしモーセがそれを受け入れて満足したことも事実です(申命記 32:48 以下)。民だけでなくモーセの罪についても思い巡らし、そしてまたモーセが最後に持っていた平安についてまで考えることが出来たことに感謝です。聖書は全体から理解することが大事です。

2 (19-31) 全能の神様の業。よって驚くべき出来事ではない。

海の水が左右に分かれて地面が現れるという信じがたい出来事。しかし、もし本当に全能の神様がなされたなら不思議ではありません。全能の神様が最初の創造の出来事を行い命を生み出したとするなら、この出来事はその命を救うための出来事と言えるでしょう。そして、命を奪う者に厳しく望まれ、救い罰するために人(モーセ)と自然(神が造られた被造物、水、風)を用いられる神であるということもこの出来事から知らされる事実です。そう思って読むと、14 章の物語と 15 章の歌はまさにこれらのことを語り歌っていることに気づかされます。後に約束のカナンの地に入るためにヨルダン川を渡る時、彼らはこの葦の海を渡った時のことと重ねて考えています(ヨシュア記 4:21-24)。信仰者のあるべき姿、神様の救いを信じて歩み続ける姿の原点がここにあるのです。

3 (19-25) 14 章の物語と 15 章の歌との違いは何か? 信仰告白とは。

15 章の「海の歌」は、この出来事にまでさかのぼる最古の歌と言われる「ミリアムの歌」(21)から始まる、代々のイスラエルの信仰者たちによって歌い継がれ、整えられ、礼拝で用いられた讚美歌、信仰告白です。信仰告白的物語 14 章との違いは何でしょうか。14 章の物語には人間の揺らぎも出てきます。しかし、15 章「海の歌」は、聖書の神様について確信をもって信ずべき大事なことだけを語っていると言えるでしょう。神様は大いなる力を持ち、それを私たちが救うために用いて下さるお方なのだと。そしてその神様が御子イエス・キリストをお与え下さったのです。そのことが加わった信仰告白の一つが使徒信条です。